



「小さな行動」

生徒たちがキャリア形成をする上で、将来にわたり満足度の高いキャリアを歩んでいけるかが大切というのは誰もが考えるところです。

生徒もこの先、常に主体的選択を求められることになり、それはなかなかのプレッシャーであると思います。このことを考える際にキーワードになるのは「情報」と「行動」になります。

今の時代は、あふれかえるほどの「情報」が入手できます。だから「情報」では差がつくことはありません。しかし、そういう情報化社会だからこそ“自分だけの経験”つまり「行動」が重要な意味をもちます。

ある調査によると、キャリア形成に影響が大きいのは、「情報量」より「行動量」という結果を見ました。興味深かったのは、「行動」の定義です。「行動」を「大きな行動」と「小さな行動」に分類していました。

「大きな行動」とは、受験などの大きな選択をするときであり、「小さな行動」とは、考えたことを人に話すとわからないことを聞く等の日々の小さなアクションになります。これまた「大きな行動」は誰もが経験することであり、差がつきません。

つまり、「小さな行動」がキャリア形成における差をつけることになります。行動量を増やすためには、「小さな行動」によって得られる“自分だけの情報”を軸にして、世の中に出回っている大量の情報を取捨選択していくことを積み重ねていくことが大切です。そして生徒たちが、自分の見方・考え方、そして自信、勇気をもてるようにしていくことが大切になります。それが、「大きな行動」やキャリア観の醸成につながっていきます。

この「小さな行動」は日々の習慣でなくてはなりません。その習慣がないままだと、「行動」スイッチが入りにくい人となります。だからこそ今のうちに「小さな行動」「大きな行動」の準備運動をしておくことが、先のキャリア形成を考えたときに大切になります。

「小さな行動」の量を増やすためには、特に日常的に関わる人とのつながりが大切です。自分が思っていることを誰かに話したり、わからないことを質問したりして、同級生とアクティブにつながっていくことは「小さな行動」の基本になります。受験は団体戦と言われる理由はそこにあります。

生徒が自分の考え方に自信がもてるよう、女学院につながる全ての人でつながっていきましょう。よろしくお願いいたします。

「小さな行動」が多い人は、「情報」を活用して、次の自分のキャリアづくりを考えていたり、社会に出たときの仕事上の悩みの解決等に役立てたりすることができるようになっていく。もちろん、「行動」するかしないかはその人次第なのだが、「行動」することが苦手な人が、自らを変えようと思うきっかけづくりとして環境も重要になる。本校は、「はないち」やさまざまな人的資源（外部講師、異学年、大学生等）との交流機会をたくさん設けている。その結果として、多くの生徒に気づきや変化につながることを生み出していこうと考えている。

ただ、一番効果的なのは日常的に関わる“人”である。同級生とのアクティブなつながりは「小さな行動」の起こしやすさになる。だから、生徒のみなさんには、とにかく仲良くしてほしい。それが、みなさんの将来のキャリア形成につながる「小さな行動」を生むことになる。